



木 木

千葉県TEACCHプログラム研究会
2017年10月28日(土) 第92号

「森」字・佐々木正美
イラスト・竹蓋伸六

発行：千葉県TEACCHプログラム研究会広報部
事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS内 TEL 043-227-8557
ホームページ：<http://www.5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm>

平成29年度 第3回 連続セミナー



「学齢期の支援

—特別支援学校の取り組みより—
神奈川県立養護学校 深水 綾 氏

今回は、以前実施していた「夏の2デイズ・トレーニングセミナー」でトレーナーを数回お願いしました深水綾先生にお越しいただき、教育現場における支援の実際についてお話をいただきました。

「現在の学校が抱える課題について」「一昔前の自閉症教育と現在の自閉症教育の変化について」という話題から始まり、「現在の御勤務校での取組」「学校現場で大切にしていること」「学齢期に育てたいこと」まで、学校現場ならではの話題や課題について具体的な例を挙げながらお話しいただきました。

一昔前の学校現場と比べ、「自閉症の特性は認知されるようになった」「保護者や関係機関との協働を意識できるようになった」「視覚支援の必要性は認識されるようになった」という反面、「How toに焦点が当たりがちになった」「支援を減らすという発想が抜けない」という課題も挙げられました。その中で、深水先生が現在の所属校に異動されてからの3年間の取組について御紹介くださいました。

移動した当初は、二次障害や行動障害のある生徒の突発的な行動で2度大怪我をされたこと、生徒の余暇スキルが少なく注目行動が多いこと、学習中の活動時間より待ち時間が長いことなど、いろいろと前任校とのギャップに悩まれたとのことでした。そこで、特別支援教育コーディネーターとしての立場から、「各担任に受け入れられる存在になって、一つの教室をモデルにする」「やって良かったと感じてもらえる、短時間で実施するケース会の開催」「教室の環境を担任と一緒に考える」「新入生の個別の教育支援計画を一緒に作成する」という取組をされました。そのことにより、深水先生の考えに賛同・相談する教員が増え、校内の支援体制に変化が見られるようになってきたとのことでした。また、パニックになったときの対処法については、「まず大人が冷静になる」「カウントダウンやタイムアウト法」「トークンエコノミー」「代替行動の呈示」を校内で共通理解して子どもたちに関わってきたことにより、子どもたちの問題行動が減ってきたとお話しいただきました。

最後に、現場で大切にしていることとして「できないことに目を向けない」「特性に振り返りフィードバックをする」「組織で変革できることを考える」「自分の視野を広げる」、学齢期に育てたいこととして「自分でできることは自分でやる」「余暇を作る」「行動のきっかけとなる動機を作る」とお話しいただきました。

今回のセミナーでは深水先生の実践を通して、自閉症のある方と関わる全ての現場で大切なのは、「チームとして動く」ことだと教えていただきました。(文責、山中)

新「お茶飲み話」



このコーナーは、千葉県TEACCHプログラム研究会のスタッフが担当します。



今回は、連続セミナー時に行っている「書籍販売」について紹介いたします。

毎回、セミナーでお話をいただく講師の方の著書や自閉症支援・教育等に関わる新刊、自閉症を理解する上での基本的な書籍やスタッフのおすすめの本を中心に、書籍販売を行ってきました。当研究会の書籍販売の主旨は「自閉症のある方への適切な支援を広めていくこと」です。加えてネット購入では、興味のある本があっても中身が分からず購入を躊躇してしまうことが少なくないことから、当セミナーで直接本を手にとってもらい、中身を見て購入していただくことをモットーにしてきました。このことから、セミナーで販売する書籍は全てTEACCHプログラム研究会で購入し、消費税を抜いた価格で皆様に書籍を提供してきました。セミナーに来ていただく方には、毎回、セミナーの開始前や休憩時に書籍コーナーにお立ち寄り、購入いただき、ありがとうございます。



しかしながら、書籍の保管場所や残った書籍の対応を考慮して、平成28年度からシステムを若干変更しました。「今まで購入してきた書籍については、研究会保存用として1冊保存し、手に取って中身を見ていただくものとする」「セミナーでお話いただく講師の著書や新刊、おすすめの本については委託販売とする」としました。現行のまま、皆様の興味関心のある書籍については手に取れ、中身を御覧いただけるシステムは変更せずに、販売する書籍の量を縮小させていただきます。書籍の購入を楽しみにされていた方には、御不便をおかけいたしますが、御容赦ください。



今後も、自閉症支援・教育に関する書籍については、セミナー会場後方で御紹介させていただきますので、是非、手に取って中身を御覧ください。スタッフ一同、皆様と一緒に、よりよい支援について学んでいきたいと考えております。

平成29年度 TEACCHプログラム研究会 第5回連続セミナーのお知らせ

期 日：12月16日（土）13：30～16：30

場 所：千葉商工会議所

演 題：「成人期の支援 入所施設における視覚支援の取り組み（仮題）」

講 師：木村 重之 氏（社会福祉法人 横浜やまびこの里 東やまたレジデンス施設長）

（編集後記）深水先生の学校現場における実践や課題についてのお話は、いかがだったでしょうか？「チーム学校」というキーワードが出てきましたが、現在の教育現場では、とても大切なキーワードになっています。「個人」ではなく「チーム」としての力が大切なんですね……。しかし、この「チーム」というキーワードは、学校現場だけではなく、どの現場においても大切なキーワードです。共通理解を図り、同じベクトルで、自閉症のある人に対して適切な支援をしていくことの大切さ……。今回のセミナーで、改めて痛感しました。皆さんの職場や環境では、「チーム」として動けますか？大切にしたい視点ですね。（山中）